



Title	海外研修の経験を生かすって？
Author(s)	久保山, 健
Citation	大学の図書館. 2008, 27(11), p. 206-207
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25942
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特集：大学図書館員の海外研修見聞録

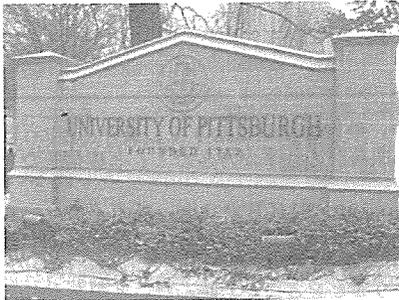
特集：大学図書館員の海外研修見聞録

海外研修の経験を生かすって？

久保山 健

1. はじめに

2007年12月から、2008年3月にかけて、3ヶ月弱の期間、客員図書館員(Visiting Librarian)として、アメリカ東部のピッツバーグ大学図書館に研修のため滞在する機会をいただきました。ここでは、比較的長い期間、海外研修に参加する機会を頂いた意味について考えたいと思います。



ある雪の日

2. 目的

目的については、図書館でのシステム運用管理のことに加え、図書館サービスの展開についても、調査することにしました。しかし、なるべく幅広く見たいという気持ちと、大阪大学での担当業務のせい、関心のある事柄は自然に広がるという面もありました。

3. 海外研修の効用

場所にもよりますが、一般的に海外研修の場が、費用、期間、手続き、ビザ、宿泊先等、

ハードルが多いでしょう。そこまでお金や手間をかけて海外まで出かける意味はどこにあるのでしょうか。出張の申請書等には、「先進的な図書館サービスの調査…」とでも書かれたりするでしょうが、それだけでしょうか。

国が違えば、図書館に関するいろんなことが違っているでしょうし、学ぶべき事柄も多いでしょう。それ以前に、文化や考え、背景なども違うことでしょう。そういうところに行けば、きっと、いわゆる「面白い」「興味深い」と感じることも多いに違いありませんし、私もそうです。

しかし、それだけでしょうか。

私が、ピッツバーグ滞在中に意識の底流で考え、時には同業の日本人と議論したりしたのは次のようなことです。

4. 海外研修の経験を生かす

「自館の業務やサービス向上に寄与する」ということは、ある意味当然で、それが簡単にできれば、あるいは簡単にできる案件なら、それでよいです。例えば、実際に悩んでいる事柄があって、それを調査したり、担当している方と話をすることによって、目の前が開けるなら、わざわざお出かけをした甲斐があるというものです。

一方、もう少し漠然としたことに、興味を感じたり、“これは日本でも参考になる”と思っただことはどうでしょうか。

例えば、次世代OPAC；学内や館内に整備されたコンピュータにプリンタ；無線LAN；カフェテリア；ラーニング・コモンズ；収入に占める寄付金等の割合の多さ；多機能な身分証などなど。

こういったことを勤務している館で生かそうと思うと、簡単に進むケースは多くはないでしょう。そういったこと肌で感じれば感じるほど、今度は日本が「外国」になります。

私の基本的な考えとしては、それらのことを「面白かったん」「すごかったん」で終わらせたくないと思っています（もちろん、そこで止まってしまうこともあります）。

では、それを生かすにはどんなことが必要なのでしょう。

まずは、文化的な背景にも気を配りつつ、ある事柄が、その国や地域で一般的なのか、特別ないし、たまたまのことなのか理解することが必要でしょう。但し、研修で訪問した1-2ヶ所の図書館だけでそれを判断するのが難しい場合もあります。その場合は、よく似た視点を持った人に、自分の感じたことを伝えて、その人の印象を聞いてみるとか、可能なら、他の図書館を多く見ると、助けになるのではないのでしょうか。

次に、それらのことを深く、ないし多面的に、あるいは定量的、質的に理解することが必要でしょう。

そして、その事柄の関係者に、それらを整理して、記述して、伝えることが必要でしょう。「面白かったん」に肉を付けないといけません。

それから、実現に向けてのいくつかのステップを踏むことになります。

実現までたどり着けば、拍手です。しかし、なかなか難しいのも否定はできないでしょう。

けれども、そういった意識を持たないことには、時間やお金を割いてくれた人や職場に申し訳ないですし、そもそも自分は、職場などから「投資」を受けて、研修に参加しているわけですから、なるべく多くの「リターン」を提供しなければ、参加した意味がない、という気持ちは持っているべきだと感じます。

5. 個別の事項

残念ながら、記載するスペースもありませんので、私が研修中にしたことや感じたことについて興味のある方は、大阪大学図書館報に掲載された記事をご覧くださいと思います

ます。

大阪大学図書館報. Vol. 42, no. 1. 2008

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/kanpo/42-1.pdf>



中央図書館である Hilman Library 閲覧室



友人たちが開いてくれた送別会にて

(その他の参考 URL)

・ブログ的レポート

http://dwsv.library.osaka-u.ac.jp/pitt_report/pitt_report.html

・ Takeshi Kuboyama, 10 weeks @ the University of Pittsburgh Libraries: Realizing the differences ... Library Connect. Vol.6, no.2. p.14. 2008.

<http://libraryconnect.elsevier.com/lcn/0602/1cn0602.pdf>

(くぼやま・たけし/大阪大学 情報推進部
情報基盤課 図書館システム担当)